

令和7年度 第1回 沖縄総合事務局開発建設部事業評価監視委員会
議事録

1. 開催日時：令和7年12月15日（月）14：00～16：00
2. 場 所：那覇第2地方合同庁舎2号館 沖縄総合事務局 2階 災害対策室
3. 出席者：○委 員
小野 尋子 琉球大学工学部教授
島田 勝也 沖縄大学地域研究所特別研究員
渡久地 卓 沖縄経済同友会常任幹事（りゅうぎん総合研究所社長）
富山 潤 琉球大学工学部教授【委員長】
仲地 健 沖縄国際大学産業情報学部教授
○沖縄総合事務局
逢坂次長（開発建設部担当）、山本開発建設部長、岡本企画調整官、嶋崎港湾空港指導官、屋我北部国道事務所長、松澤南部国道事務所長、與儀平良港湾事務所長ほか

4. 議事要旨：

【報告】

●道路事業の費用対効果分析について

【質疑内容】

委員長：報告について、質問等はあるか。

各 委 員：特になし。

【再評価事業審議】

●一般国道58号 恩納バイパス、恩納南バイパスについて

・対応方針（原案）に対して審議を行った結果、「事業を継続」で了承された。

【審議内容】

- 委 員：恩納バイパス・恩納南バイパスの整備の影響に関する地元の意見を聞かせてほしい。懸念事項として、バイパスへの交通転換により、地元の商店や飲食店が素通りされていないかが気になる。
- 事 務 局：恩納村役場へヒアリングしたところ、「バイパスへの交通転換により、全体的な客数は減った可能性はあるが、バイパスが暫定開通し、国道58号現道の渋滞が緩和されることで、恩納村内の周遊観光が円滑になり、村民の安全や生活環境が向上した」との回答をいただいた。
- 委 員：名護市周辺で大型テーマパークが開業し、観光需要の更なる増加が見込まれると記載があるが、これは定量的なものか、定性的なものなのか。
- 事 務 局：定性的な記載である。
- 委 員：コスト縮減のため、中央分離帯における植栽の設置を取りやめているが、景観の観点からも、逆に予算を工面し植栽を設置するべきではないのか。

事務局：植栽の維持管理費用について、概算だが５０年間で数億円程度掛かる見込みである。観光交通の多い現道と、通過交通が多いバイパスとで利用形態の違いもあることから、現道の植栽維持管理に注力したいと考えている。

委員：仮に、今後社会情勢が変化し、中央分離帯に植栽を設置すべきとなった場合、後付けで植栽を設置することは、技術的に可能なのか。

事務局：技術的には可能である。社会情勢が大きく変われば、再検討の余地はある。

委員：部材に腐食が確認されたことから、塗装や材料を変更したと説明あったが、当初から変更後の計画としなかった理由としては、新技術等の採用との認識で良いか。

事務局：鋼道路橋防食便覧等の改定に伴い、新しい技術の防錆処理や鋼材を採用した。

委員長：対応方針について、事業継続としたいと思うがいかがか。

各委員：異議なし。

●一般国道５８号 浦添北道路Ⅱ期線

・対応方針（原案）に対して審議を行った結果、「事業を継続」で了承された。

【審議内容】

委員：今後の西海岸道路の整備により、海への景観が損なわれないか懸念しているため、事業化していない北谷交差点以北を計画する際には、海上ではなく、陸側のルートを検討していただきたい。

事務局：いただいた意見を踏まえて、今後も検討していく。

委員：個別事業で質問する内容ではないかもしれないが、燃料費の削減とCO₂排出量削減については二重計上でないのか。

事務局：CO₂排出量の削減については、費用便益比算出の計算には含まれていない。あくまでも、費用対効果に含まれないその他の効果として算定している。

委員：道路の建設時にもCO₂は排出される。減少分だけを効果として見込むのは、いいところ取りではないか。

事務局：ご指摘の通り、建設時排出されるCO₂は考慮されていない。あくまで現時点で算出可能な効果として、CO₂の削減効果を試算してみたものである。今後これらの効果を、費用対効果の効果に組み込むべきかを含めて、国土交通省で検討していると聞いている。

委員：海上橋のため塩害対策が大変だと思うので、防錆処理を理由に事業費増とならないよう、設計段階からしっかりと検討を進めていただきたい。

事務局：承知した。

委員長：対応方針について、事業継続としたいと思うがいかがか。

各委員：異議なし。

●一般国道３２９号 南風原バイパス

- ・対応方針（原案）に対して審議を行った結果、「事業を継続」で了承された。

【審議内容】

委員長：対応方針について、事業継続としたいと思うがいかがか。

各委員：異議なし。

●平良港漲水地区複合一貫輸送ターミナル改良事業

- ・対応方針（原案）に対して審議を行った結果、「事業を継続」で了承された。

【審議内容】

委員：新規追加施設の防波堤延伸による波浪低減解析結果が示されているが、著しく波浪が低減される防波堤背後などで、波の滞留に伴い土砂が堆積しやすくなる懸念はないのか。

事務局：港湾環境によって土砂堆積が生じる事例も存在するが、平良港においては土砂が滞留するような環境下にはないと考えている。

委員長：対応方針について、事業継続としたいと思うがいかがか。

各委員：異議なし。

【全体を通して】

各委員：特になし。

以上